

Serial #: 09/757,565
Inventor: Kazuaki KINYOU, et al.
Group Art #: 2861



日本特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application:

2001年 1月 4日

出願番号
Application Number:

特願2001-000185

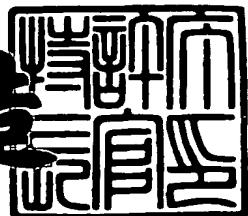
出願人
Applicant(s):

富士写真フィルム株式会社

2001年 3月 23日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3023225

【書類名】 特許願
【整理番号】 P-32905-1
【提出日】 平成13年 1月 4日
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 G03G 21/20
【発明者】
【住所又は居所】 静岡県富士宮市大中里 200番地 富士写真フィルム株
式会社内
【氏名】 金城 和明
【発明者】
【住所又は居所】 神奈川県足柄上郡開成町宮台 798番地 富士写真フィ
ルム株式会社内
【氏名】 沢野 充
【発明者】
【住所又は居所】 静岡県富士宮市大中里 200番地 富士写真フィルム株
式会社内
【氏名】 畑山 清治
【特許出願人】
【識別番号】 000005201
【氏名又は名称】 富士写真フィルム株式会社
【代理人】
【識別番号】 100105647
【弁理士】
【氏名又は名称】 小栗 昌平
【電話番号】 03-5561-3990
【選任した代理人】
【識別番号】 100105474
【弁理士】
【氏名又は名称】 本多 弘徳

【電話番号】 03-5561-3990

【選任した代理人】

【識別番号】 100108589

【弁理士】

【氏名又は名称】 市川 利光

【電話番号】 03-5561-3990

【選任した代理人】

【識別番号】 100115107

【弁理士】

【氏名又は名称】 高松 猛

【電話番号】 03-5561-3990

【選任した代理人】

【識別番号】 100090343

【弁理士】

【氏名又は名称】 栗宇 百合子

【電話番号】 03-5561-3990

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000- 3667

【出願日】 平成12年 1月12日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 092740

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0003489

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 記録装置

【特許請求の範囲】

【請求項1】 記録媒体を表面に固定するための媒体固定部材と、前記記録媒体に記録を行うための記録手段と、エアを供給して装置内を陽圧するためのエア供給手段と、を備える記録装置において、前記記録装置内に、除湿手段、加湿手段、加熱手段および冷却手段の少なくとも一個を有し、前記記録装置内の温度と温度の少なくとも一方を一定に保つようにしたことを特徴とする記録装置。

【請求項2】 記録媒体を表面に固定するための媒体固定部材と、前記記録媒体に記録を行うための記録手段と、エアを供給して装置内を陽圧するためのエア供給手段と、を備える記録装置において、前記エア供給手段におけるエア供給口の上流側に、除湿手段、加湿手段、加熱手段および冷却手段の少なくとも一個を有し、前記記録装置内の温度と温度の少なくとも一方を一定に保つようにしたことを特徴とする記録装置。

【請求項3】 前記記録媒体の供給経路に、前記加湿手段を設けることを特徴とする請求項1記載の記録装置。

【請求項4】 さらに加湿室と、該加湿室にエアを供給するための加湿用エア供給手段とを備えた請求項3記載の記録装置において、前記加湿手段は、保水性材料に水をしみこませた素材を前記加湿室内または前記加湿用エア供給手段と前記加湿室との間に置くことにより加湿を行うことを特徴とする記録装置。

【請求項5】 前記加湿手段は、保水ローラを記録媒体の供給経路に接触または近接することにより加湿を行うことを特徴とする請求項3記載の記録装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、記録媒体に画像・文字等の情報を記録する記録装置に係り、特に、記録装置内または記録媒体の温度または湿度を一定に保ちながら記録を行う記録装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

サーマルヘッドやレーザヘッド等の記録ヘッドにより画像または文字等の情報を記録する記録装置においては、その記録装置内の環境、つまり温度や湿度の変化により、記録ヘッドなどの構成部材の性能または記録媒体の感熱材料（以下、感材という。）の記録感度（以下、単に、感度という。）が変化し、仕上がりの画像に大きな影響を及ぼす。

【0003】

本発明が対象としている記録装置は、回転記録用ドラム（以後、「記録ドラム」という。）の表面上に、記録媒体（受像シートおよび複数のトナーシート、例えば、K（黒）、C（シアン）、M（マゼンタ）、Y（イエロー）の標準トナーシートや印刷分野で用いられる金、銀等の特色シート等の感材）を搬送して固定し、記録ヘッドからレーザ光を照射して画像や文字等を記録する。

【0004】

上記構成の記録装置において、記録装置内の温度が変化すると、同一の条件（同一の記録エネルギー、記録時間等）で一様な記録を行うことは困難となる。

【0005】

記録装置内の温度が低い場合には、記録ヘッドにより照射されたレーザ光の記録エネルギーは減衰する。したがって、記録ヘッドから記録媒体へ照射されたビームスポットの径は規定された径よりも小さくなり、また、レーザ光の強度も小さくなるため、十分な記録を行うことができなくなる。その結果、仕上がりの画像に画像ムラ等が生じ、特にカラー画像の品質に大きな影響を与える。また、記録媒体の温度が低い（すなわち感材の温度が低い）場合も同様であり、記録時間を変えずに記録を行うためには温度が高い場合より多くの記録エネルギーが必要となる。

【0006】

また、記録装置内の温度が変化する場合も、感材の感度が変化するために同一の条件で一様な記録を行うことが困難となる。

一般に、感材の最適な温度は、約70%であり、温度が下がるとその感度も下がる性質がある。したがって、記録装置内の温度が低い場合、感材の温度が低下

して感材の感度が下がるために、温度が高い場合より多くの記録エネルギーが必要となる。

【0007】

このため、記録媒体に入射するレーザ光の記録エネルギーを規定の値にするために、記録時間を長く設定すればよいが、これでは記録速度が遅くなり、高速記録を行う上で支障をきたすことになる。

【0008】

さらに、記録装置内の温度が低い場合には、記録媒体と構成部材が接する箇所に静電気が生じるという問題もある。特に、記録媒体を搬送する搬送ガイドにおいて静電気が発生し、それにより搬送ジャムが生じる。また、静電気により記録装置内の電子部品にも悪影響（ソフト基板の故障等）を及ぼす。

他方では、このような記録装置はゴミの混入を極度に嫌うため、記録装置内を陽圧にするために記録装置外よりエアを供給する。すると、上記のような装置内の温湿度の安定化が難しくなる。

【0009】

【発明が解決しようとする課題】

このような問題に対し、従来では、記録装置内に温度および湿度を検知する検知センサを設け、この検知センサにより記録装置内の温度および湿度を検知し、ソフトウェアにより温度および湿度に対する記録条件（レーザの変調、走査速度等）の補正值を計算し、この補正值に基づいて記録条件を自動で変更している。しかしながら、このようなソフトウェアの開発などには多くの費用と時間を消費するという問題点がある。

【0010】

本発明は上記事情に鑑みてなされたもので、記録装置内の温度および湿度を装置内の陽圧を維持しながら制御することができる安価な記録装置を提供することを目的とする。

【0011】

【課題を解決するための手段】

上記課題を達成するために、請求項1記載の記録装置は、記録媒体を表面に固

定するための媒体固定部材と、前記記録媒体に記録を行うための記録手段と、エアを供給して装置内を陽圧するためのエア供給手段とを備える記録装置において、前記記録装置内に、除湿手段、加湿手段、加熱手段および冷却手段の少なくとも一個を有し、前記記録装置内の温度と湿度の少なくとも一方を一定に保つようにしたものである。

【0012】

また、請求項2記載の記録装置は、前記エア供給手段におけるエア供給口の上流側に、除湿手段、加湿手段、加熱手段および冷却手段の少なくとも一個を有し、前記記録装置内の温度と湿度の少なくとも一方を一定に保つようにしたものである。

【0013】

また、請求項3記載の記録装置は、請求項1記載の記録装置において、前記記録媒体の供給経路に、前記加湿手段を設けるものである。

【0014】

また、請求項4記載の記録装置は、さらに加湿室と、該加湿室にエアを供給するための加湿用エア供給手段とを備えた請求項3記載の記録装置において、前記加湿手段は、保水性材料に水をしみこませた素材を前記加湿室内または前記加湿用エア供給手段と前記加湿室との間に置くことにより加湿を行うものである。

【0015】

また、請求項5記載の記録装置は、請求項3記載の記録装置において、前記加湿手段が、保水ローラを記録媒体の供給経路に接触または近接することにより加湿を行うものである。

【0016】

本発明の請求項1および2記載の記録装置では、記録媒体を媒体固定部材の表面に固定し、記録手段により記録媒体に記録を行い、エア供給手段により記録装置外よりエアを供給して装置内を陽圧する。さらに、エア供給手段におけるエアの供給口に設けられた少なくとも一個の除湿手段、加湿手段、加熱手段および冷却手段により記録装置内の温度と湿度の少なくとも一方を一定に保つようにしている。

【0017】

このように本発明の請求項1および2記載の記録装置では、エア供給手段におけるエアの供給口に、除湿手段、加湿手段、加熱手段および冷却手段の少なくとも一個を有し、記録装置内の温度と湿度の少なくとも一方を一定に保つ（最適な値に保つ）ことができるので、記録装置内の温度変化または湿度変化による構成部材の性能の低下および記録媒体における感材の感度の低下を防ぐことが可能であり、それにより無駄な記録エネルギーを消費することなく記録を行うことができ、また、仕上がり画像の画像ムラを防止することができる優れた記録装置を実現することができる。また、記録装置内の温度変化による構成部材と記録媒体の接触箇所における静電気の発生およびそれに伴なう搬送ジャムの発生や電子部品の故障を防ぐことができる。

【0018】

また、本発明の請求項1, 3, 4および5記載の記録装置では、記録媒体を媒体固定部材の表面に固定し、記録手段により記録媒体に記録を行い、エア供給手段によりエアを供給して装置内を陽圧する。さらに、記録媒体の供給経路に設けられた加湿手段により記録媒体の温度を一定に保つようにしている。

【0019】

このように、本発明の請求項1, 3, 4および5記載の記録装置では、加湿手段を記録媒体の供給経路に設け、記録媒体を加湿状態にすることにより、記録媒体の水分量を最適な量に保つことができる。これにより、特に湿度の変化の影響を受け易い感材の感度が低下することを防ぐことが可能であり、それにより無駄な記録エネルギーを消費することなく記録を行うことができ、また、仕上がり画像の画像ムラを防止することができる優れた記録装置を実現することができる。

【0020】

例えば、加湿手段は、加湿室と加湿用エア供給手段とを備え、保水性材料に水をしみこませた素材を加湿室内または加湿用エア供給手段と加湿室との間に置くことにより加湿を行い、記録媒体の水分量を最適な量に保つことができる。

また、加湿手段は、保水ローラを備え、保水ローラを記録媒体の供給経路に接触または近接することにより加湿を行い、記録媒体の水分量を最適な量に保つこ

とができる。

【0021】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の記録装置の実施の形態について、【第1の実施形態】、【第2の実施形態】、【第3の実施形態】の順に、図面を参照して詳細に説明する。

【0022】

【第1の実施形態】

先ず、以下に本発明の第1の実施形態に係る記録装置について説明する。

本実施形態は、記録装置内に加湿器を設けて記録装置内の湿度を最適に保つことにより、構成部材と記録媒体の接触箇所における静電気の発生およびそれに伴なう搬送ジャムの発生や電子部品の故障を防ぐ。また、無駄な記録エネルギーの消費を防ぎ、仕上がり画像における影響（画像ムラ等）を低減するものである。

【0023】

図1は第1の実施形態に係る記録装置の横面図である。

同図において、本実施形態の記録装置1は、記録部2、ファン3、フィルタ4および加湿器5を備えて構成されている。

【0024】

ここで、記録部2は、記録媒体を表面に固定するための媒体固定部材に該当する記録ドラムと、記録媒体に記録を行うための記録手段に該当する記録ヘッドとを備えて構成されている。つまり、記録ドラムに記録媒体を搬送および固定し、記録ヘッドによりレーザ光を照射することにより、記録媒体に画像や文字等の情報を記録する。

【0025】

また、ファン3は、エア（空気）を供給して装置内を陽圧するためのエア供給手段に該当する。すなわち、ファン3は、シロッコファンや遠心ファン等であり、記録装置1外部から内部方向に向けて風を送り込み記録装置1内を陽圧することにより、装置の隙間から塵埃が侵入することを防ぐ。

また、フィルタ4は、ファン3により外部から送り込まれる空気中に含まれる塵埃などを除去する。

【0026】

また、加湿器5は、記録装置1内の温度を最適に保つ加湿手段に該当する。例えば、加湿器5は、水をしみこませた綿などの保水性材料を内部に備えており、記録装置1内を加湿状態にする。これにより、記録媒体と構成部材が接触する箇所における静電気の発生およびそれに伴なう搬送ジャムの発生や電子部品の故障を防いだり、また、無駄な記録エネルギーの消費を防ぎ、仕上がり画像の画像ムラを防止することができる。

【0027】

次に、以上説明した構成を備える本実施形態の記録装置における動作について説明する。

本実施形態の記録装置1は、ファン3から空気が供給されることにより記録装置1内を陽圧している。フィルタ4は、ファン3から供給される空気中に含まれるゴミなどの塵埃が装置内に侵入することを防ぐ。このように、装置内を陽圧することにより隙間からのゴミなどの塵埃を防ぎながら画像や文字等の情報を記録することが可能となる。このとき、記録装置1内の温度が低いと、記録ヘッドなどの構成部材の性能および感材の感度が低下し、また、記録媒体と記録装置1の構成部材が接触する箇所において静電気が発生する。これにより、搬送ジャムや装置内の電子部品の故障が生じたり、仕上がり画像に画像ムラが生じることになる。このため、本実施形態では、例えば、水をしみこませた綿を内部に設けた加湿器5を記録装置1内に備えることにより、記録装置1内を常に加湿状態にして記録装置1内の温度を最適な値に保っている。これにより、搬送ジャムや電子部品の故障または仕上がり画像の画像ムラ等を防止することができる。

【0028】

また、本実施形態の加湿器5は、図2aに示すように、ファン3から記録装置1内への空気の流入口に設置することも可能である。ここで、図2aは、加湿器5をファン3の流入口に設けた記録装置1の横面図である。

同図において、加湿器5は、ファン3の空気の流入口に設けられ、ファン3により記録装置1内へ送り込まれる空気中の水分量を増加させる。これにより、記録装置1内が加湿状態になり、搬送ジャムや電子部品の故障または仕上がり画像

の画像ムラ等を防止することができる。

図2bに示すように、ファン3の上流側に設けることも同様の効果を得ることができる。

さらに、加湿器を離れた場所に設置し、ダクトによりファン3上流側に設けることもできる。

【0029】

このように、本発明の第1の実施形態では、記録装置1内に加湿器5を設けて記録装置1内の温度を最適な値に保つ。これにより、記録装置内の温度変化による構成部材の性能の低下および記録媒体における感材の感度の低下を防ぎ、仕上がり画像の画像ムラを防止することができる。また、構成部材と記録媒体の接触箇所における静電気の発生およびそれに伴なう搬送ジャムの発生や電子部品の故障を防ぐことができる。

【0030】

さらに、装置内が加湿状態となり感材の感度が上がることによって、記録速度を高めることができるので、生産性が向上する。または、同一の記録速度で記録を行う場合は、無駄な（より多くの）記録エネルギーを消費することなく記録を行うことができる。

【0031】

なお、本実施形態においては、記録装置1内に加湿器5を設けて、記録装置1内の温度を最適に保つものであるが、装置内の温度が高すぎる場合は、除湿手段として除湿器を設けて装置内の除湿を行うことにより、装置内の温度を最適に保つことも可能である。また、加熱手段または冷却手段として加熱器または冷却器を設けて、装置内の温度を制御することも可能である。なお、これらの加湿器、除湿器、加熱器および冷却器は、組み合せて使うことによりさらに装置内を最適な環境に設定することも可能である。

【0032】

また、記録装置1内における温度または湿度の制御には、温度または湿度を測定するためのセンサと、加湿器、除湿器、加熱器または冷却器をそれぞれ制御する制御部とをさらに備え、センサが検出した装置内の温度または湿度の値に基づ

いて制御部が加湿器または加熱器等の温度または湿度を制御することにより、装置内をより最適な温度または湿度に調整することも可能である。

【0033】

上記の第1の実施形態における記録装置では、加湿器を記録装置内に設けて装置内の温度を最適にすることにより、構成部材の性能の低下および記録媒体における感材の感度の低下を防ぎ、また、構成部材と記録媒体との静電気の発生を防ぐものである。しかしながら、特に、記録媒体の感材が装置内の温度または湿度変化の影響を受け易いため、記録媒体の供給経路に加湿セクションを設けることにより、記録媒体の感度の低下を防ぐことが可能であり、これにより、無駄な記録エネルギーの消費を防ぎ、仕上がり画像の画像ムラを防ぐことが可能である。

以下に、加湿セクションを記録媒体の供給経路に設けた記録装置について、【第2の実施形態】、【第3の実施形態】の順に、図面を参照して詳細に説明する。

【0034】

【第2の実施形態】

先ず、以下に本発明の第2の実施形態に係る記録装置について説明する。

本実施形態は、特に、温度の変化の影響を受け易いトナーシートの供給経路に加温室を設けてトナーシートの水分量（湿度）を最適に保つことにより、無駄な記録エネルギーの消費を防ぎ、仕上がり画像における影響（画像ムラ等）を低減するものである。

【0035】

図3（a）は第2の実施形態に係る記録装置におけるトナーシート14の搬送経路の簡略断面図である。

同図において、本実施形態の記録装置は、トナーシート14の供給経路（トナーシート供給部から記録ドラムへの供給経路）において、搬送ローラ対10、11と、加温室12と、保水性材料13と、湿度制御部15と、湿度検知センサ16とを備えて構成されている。

【0036】

ここで、搬送ローラ対10、11は、点線矢印方向に回転しながらトナーシー

ト14を記録ドラム方向（実線矢印方向）へ挟持搬送する。つまり、記録時に図示しないトナーシート供給部から供給されたトナーシート14を搬送ローラ対10、続いて搬送ローラ対11で挟持搬送しながら記録ドラムへ搬送する。

【0037】

また、加湿セクションは、トナーシート14の供給経路に設けられた加湿手段に該当し、加湿室12、保水性材料13、湿度制御部15および湿度検知センサ16により構成される。すなわち、加湿室12は、その内部に綿などの水をしみこませた保水性材料13を有し、加湿室12内を通過するトナーシート14を加湿状態にする。また、湿度検知センサ16は、トナーシート14に近接して設けられてトナーシート14の周囲の湿度（すなわち、トナーシート14の湿度）を検知し、湿度制御部15は、湿度検知センサ16により検知した湿度に基づいて保水性材料13の水分量を制御する。例えば、湿度制御部15には保水性材料13に水を供給する水分供給部が設けられ、その水分供給部からの水の供給量をトナーシート14の湿度に応じて制御する。

【0038】

次に、以上説明した構成を備える本実施形態の記録装置における動作について説明する。

本実施形態の記録装置において、トナーシート14は、記録時に図示しないトナーシート供給部から記録ドラムへと供給される（実線矢印方向）。

先ず、トナーシート14は、トナーシート供給経路において、搬送ローラ対10に挟持され、この搬送ローラ対10の回転により記録ドラム方向に搬送されながら加湿室12の内部へ搬送される。

【0039】

ここで、トナーシート14の温度が低い場合、トナーシート14の感度が低下し、仕上がり画像に重大な影響を及ぼすこととなる。このため、本実施形態では、湿度検知センサ16によりトナーシート14周囲の湿度を検知し、湿度制御部15により検知した湿度に基づき保水性材料13の水分量を調節する。これにより、加湿室12内の加湿状態が調整されて内部を通過するトナーシート14の水分量を最適な値に設定することができ、トナーシート14の感度が変化すること

を防ぐことが可能となる。

【0040】

このように加湿室12で十分な水分を得たトナーシート14は、次に、搬送ローラ対11に挟持されて記録ドラムへ搬送される。

【0041】

本実施形態の記録装置は、加湿セクションにおいて、図3(b)に示すように、加湿室12にエアを供給する加湿用エア供給部17を設けることも可能である。同図に示すように、水をしみこませた保水性材料13を加湿器12への空気流入経路に設けることにより、流入される空気中の水分量を高め、トナーシート14の水分量を最適な値に保つことができる。なお、図3(b)には、簡略化のため湿度検知センサおよび湿度制御部を省略している。

【0042】

このように、本発明の第2の実施形態では、トナーシート14の供給経路に加湿室12を設けてトナーシート14を加湿状態にすることによりトナーシート14の水分量を最適な量に保つ。これにより、特に湿度の変化の影響を受け易いトナーシート14の感度が低下することを防ぎ、仕上がり画像の画像ムラを防止することができる。また、無駄な記録エネルギーを消費することなく記録を行うことができ、生産性が向上する。

【0043】

なお、本実施形態においては、トナーシート供給経路に加湿室12を設けて、トナーシート14の温度を最適に保つものであるが、代わりに、除湿室、加熱室および冷却室の少なくとも一個を設けることにより、記録媒体の温度または温度を最適に保つことも可能である。

また、搬送ローラ対10, 11の内部にヒータを設けることにより、搬送されるトナーシート14の温度を制御することも可能である。この場合は、加湿室12における温度の制御はヒータの温度との調整が必要である。

【0044】

また、本実施形態では、トナーシート供給経路に加湿セクションを設けているが、レーザ光により記録された後に記録媒体を搬送する記録媒体搬送経路に設け

ることも可能であり、これにより構成部材と記録媒体の接触による静電気の発生を防ぐこともできる。

【0045】

〔第3の実施形態〕

次に、本発明の第3の実施形態に係る記録装置について説明する。

本実施形態の記録装置は、受像シートの供給経路に保水ローラを設けて、受像シートを加湿状態にするものである。これにより、記録時に重ねられるトナーシートも加湿状態にすることができる。したがって、無駄な記録エネルギーの消費を防ぎ、仕上がり画像における影響を低減することができる。また、加湿室を設ける必要がないために装置構成およびコストをさらに抑えた記録装置を実現することが可能となる。

【0046】

図4は第3の実施形態に係る記録装置における受像シート18の搬送経路の簡略断面図である。

同図において、本実施形態の記録装置は、受像シート18の供給経路（受像シート供給部から記録ドラムへの供給経路）において、搬送ローラ対20、21、保水ローラ22、搬送ローラ23および水分供給部24とを備えて構成される。ここで、搬送ローラ対20、21は、第2の実施形態の記録装置における搬送ローラ対10、11と同様であり、その詳細な説明は省略する。

【0047】

また、保水ローラ22は、受像シート18の供給経路に近接して移動可能に設けられ、受像シート18が搬送される際に移動し、受像シート18に接触することにより加湿を行う加湿手段に該当する。例えば、保水ローラ22は、搬送ローラに水分を含んだスポンジなどの保水性材料を周囲に巻き付けたローラであり、受像シート18の表面に接触して回転することにより受像シート18を加湿状態にしながら受像シート18を挟持搬送する。また、搬送ローラ23は、保水ローラ22と共に回転しながら受像シート18を挟持搬送する。なお、この搬送ローラ23は、保水ローラであってもよい。

【0048】

また、水分供給部24は、保水ローラ22に水を補給するためのものである。この水分供給部24から供給される水の量は、例えば、図示しない温度検知センサにより検知した受像シート18の温度に基づいて、温度制御部によりスポンジへの水の供給が制御されることにより決定される。これにより、保水ローラ22が受像シート18を加湿状態にするために必要な量の水を補給することができる。

【0049】

次に、以上説明した構成を備える本実施形態の記録装置における動作を説明する。

先ず、受像シート供給部から供給された受像シート18は、先ず、搬送ローラ対20に挟持搬送され、続いて保水ローラ対22, 23により挟持されて記録ドラムへと搬送される。この際、保水ローラ22は水分を含んでいるスポンジをローラの周囲に巻付けたものであるため、受像シート18を加湿状態にすることができる。保水ローラ22のスポンジへの水の供給は、水分供給部24から供給される。例えば、図示しない温度検知センサおよび温度制御部を設け、温度検知センサにより受像シート18の温度を検知し、検知した温度の値に応じて温度制御部により水分供給部24から供給する水の量を制御し、それに応じて水分供給部24が水を保水ローラ22へ供給する。

【0050】

つまり、受像シート18の温度が低い場合、水分供給部24からの水を多く供給して保水ローラの水分量を高めて、そこに挟持搬送される受像シート18の温度を上げる。結果として、記録時に重ね合わされるトナーシートの温度も高くすることもできる。また、反対に受像シート18の温度が高い場合は、保水ローラの水分量を下げる。このように、保水ローラ22に挟持搬送される受像シート18の水分量を調節して、記録時に重ね合わせされるトナーシートの温度も高めることが可能となる。これにより、記録媒体における感材の感度が低下するのを防止できる。

【0051】

そして、上記のように加湿状態になった受像シート18は、搬送ローラ対21

に挿持搬送されて記録ドラムへと搬送される。

【0052】

このように、本発明の第3の実施形態では、受像シート18の供給経路に保水ローラ22を設け、受像シート18を加湿状態にする。また、結果として、記録時に重ね合わされるトナーシートの温度も高めることが可能となる。これにより、特に温度の変化の影響を受け易い記録媒体における感材の感度が低下することが防止でき、仕上がり画像の画像ムラを防止することができる。また、無駄な記録エネルギーを消費することなく記録を行うことができ、生産性が向上する。

【0053】

なお、本実施形態においては、加湿するための装置として受像シート供給経路に保水ローラ22を設けて、受像シート18の温度を最適に保つものであるが、代わりに、加湿室、除湿室、加熱室および冷却室の少なくとも一個を設けることにより、受像シート18の温度または温度を最適に保つことも可能である。

また、搬送ローラ対20、21に内部にヒータを設けることにより、搬送される受像シート18の温度を制御することも可能である。この場合は、保水ローラ22における温度の制御はヒータの温度との調整が必要である。

【0054】

【発明の効果】

上述のように、本発明によれば、記録装置内の温度または湿度を制御することができる安価な記録装置を提供することができる。

【0055】

さらに本発明の記録装置は、記録装置内または記録媒体の湿度変化による構成部材の性能の低下および感材の感度の低下を防ぎ、仕上がり画像の画像ムラを防止することができる。また、構成部材と記録媒体の接触箇所における静電気の発生およびそれに伴なう搬送ジャムの発生や電子部品の故障を防ぐことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

第1の実施形態に係る記録装置の横面図である。

【図2】

加湿器をファンの流入口に設けた記録装置の横面図である。

【図3】

第2の実施形態に係る記録装置におけるトナーシートの搬送経路の簡略断面図である。

【図4】

第3の実施形態に係る記録装置における受像シートの搬送経路の簡略断面図である。

【符号の説明】

1 記録装置

2 記録部

3 ファン

4 フィルタ

5 加湿器

10, 11, 20, 21, 23 搬送ローラ対

12 加湿室

13 保水性材料

14 トナーシート

15 湿度制御部

16 湿度検知センサ

17 加湿用エア供給部

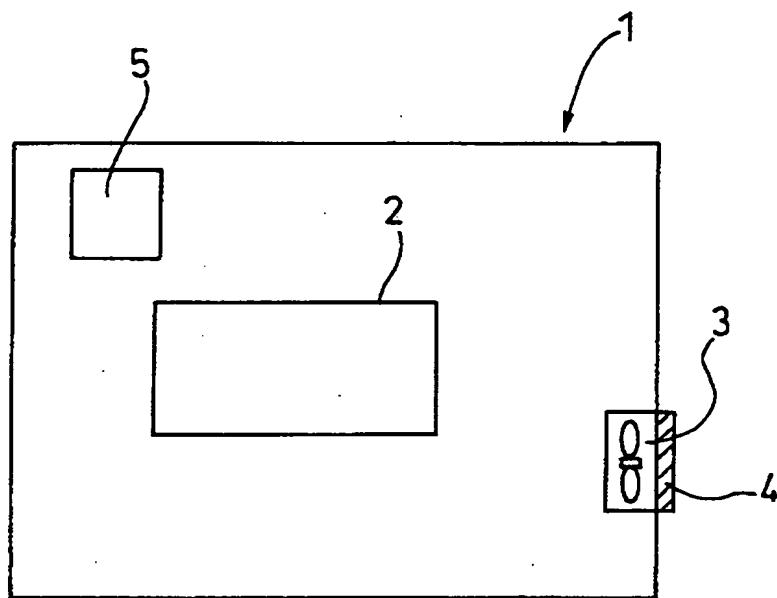
18 受像シート

22 保水ローラ

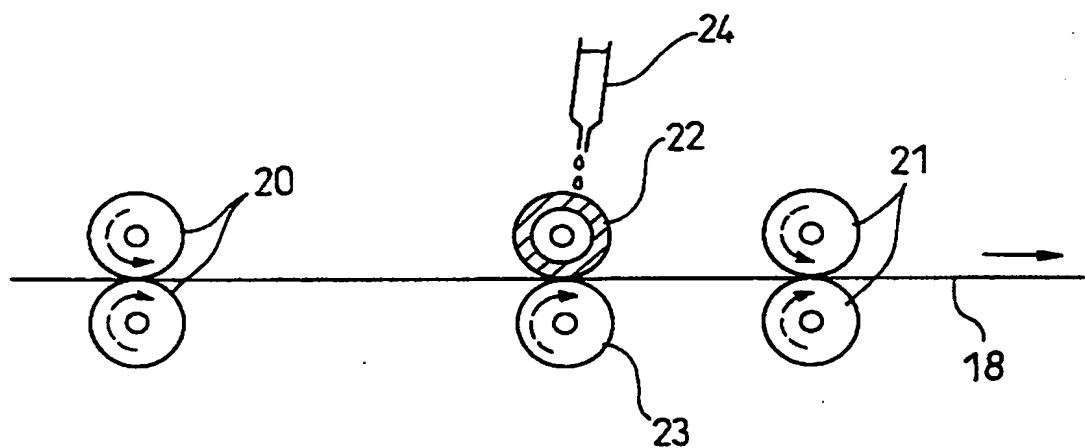
24 水分供給部

【書類名】 図面

【図1】

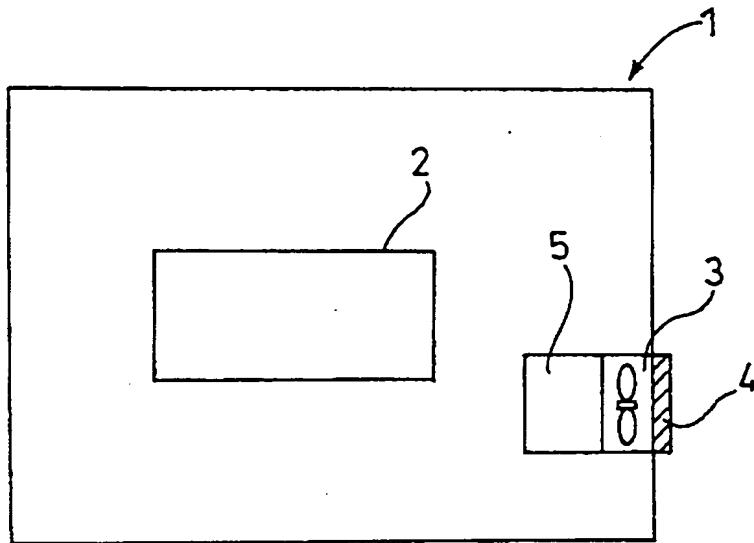


【図2】

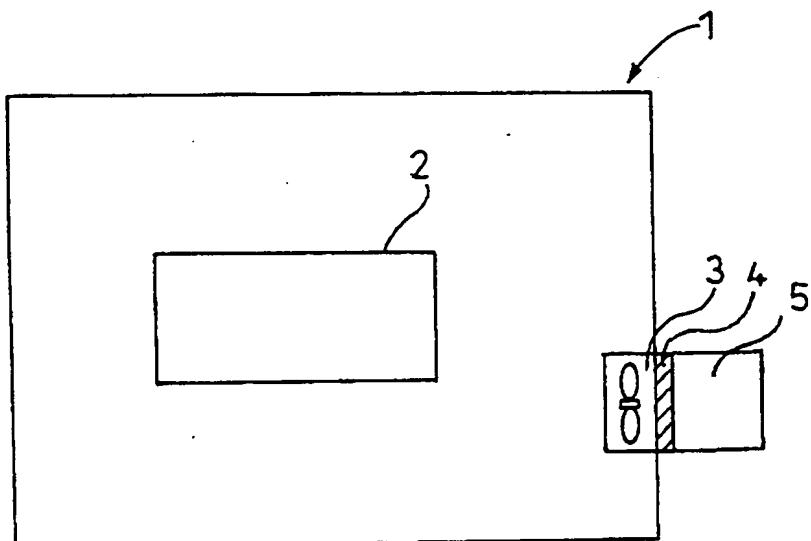


【図3】

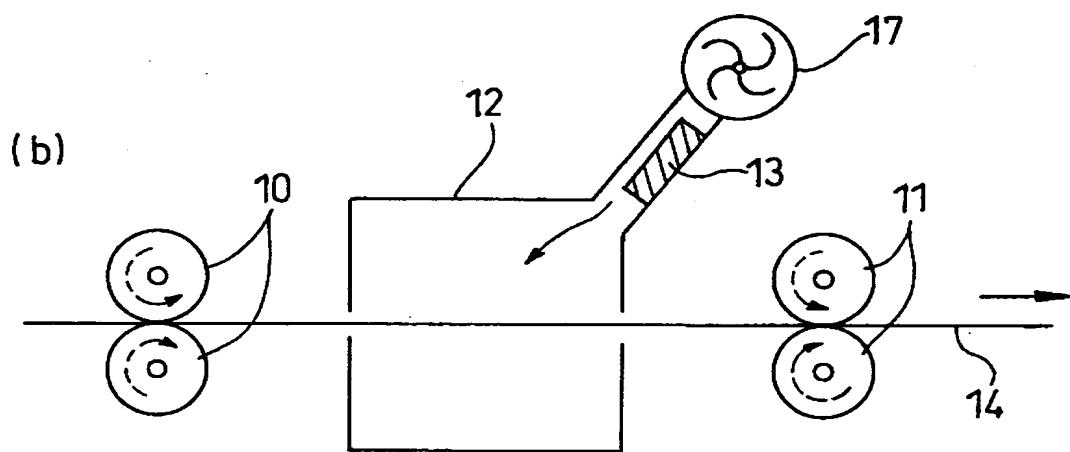
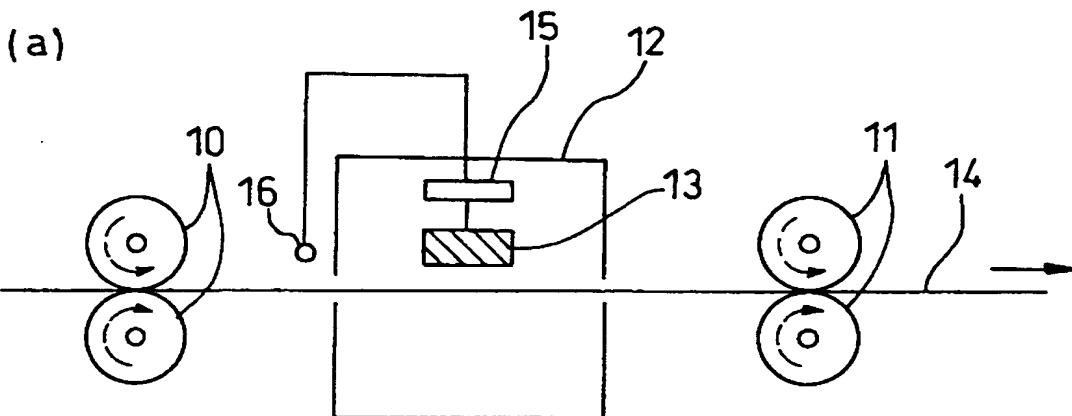
(a)



(b)



【図4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 記録装置内の温度または湿度を制御することができる安価な記録装置を提供する。

【解決手段】 記録装置1は、ファン3から空気が供給されることにより記録装置1内を陽圧している。フィルタ4は、ファン3から供給される空気中に含まれるゴミなどの塵埃が装置内に侵入することを防ぐ。加湿器5は、水をしみこませた保水性材料を内部に備え、記録装置1内を常に加湿状態にして記録装置1内の温度を最適な値に保っている。これにより、記録装置1内の温度変化による構成部材の性能の低下および記録媒体における感材の感度の低下を防ぎ、仕上がり画像の画像ムラを防止する。また、構成部材と記録媒体の接触箇所における静電気の発生およびそれに伴なう搬送ジャムの発生や電子部品の故障を防ぐ。

【選択図】 図1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2001-000185
受付番号	50100001691
書類名	特許願
担当官	渡辺 正幸 7072
作成日	平成13年 1月10日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】	000005201
【住所又は居所】	神奈川県南足柄市中沼210番地
【氏名又は名称】	富士写真フィルム株式会社
【代理人】	申請人
【識別番号】	100105647
【住所又は居所】	東京都港区赤坂一丁目12番32号 アーク森ビル28階栄光特許事務所
【氏名又は名称】	小栗 昌平
【選任した代理人】	
【識別番号】	100105474
【住所又は居所】	東京都港区赤坂1丁目12番32号 アーク森ビル28階 栄光特許事務所
【氏名又は名称】	本多 弘徳
【選任した代理人】	
【識別番号】	100108589
【住所又は居所】	東京都港区赤坂1丁目12番32号 アーク森ビル28階 栄光特許事務所
【氏名又は名称】	市川 利光
【選任した代理人】	
【識別番号】	100115107
【住所又は居所】	東京都港区赤坂1丁目12番32号 アーク森ビル28階 栄光特許事務所
【氏名又は名称】	高松 猛
【選任した代理人】	
【識別番号】	100090343
【住所又は居所】	東京都港区赤坂1丁目12番32号 アーク森ビル28階 栄光特許事務所

次頁有

特2001-000185

認定・付加情報 (続巻)

【氏名又は名称】 栗宇 百合子

次頁無

出願人履歴情報

識別番号 [000005201]

1. 変更年月日 1990年 8月14日

[変更理由] 新規登録

住 所 神奈川県南足柄市中沼210番地

氏 名 富士写真フィルム株式会社